

県産トマトに「モス」シール

カネ井青果と JA など連携
ロゴ貼り販売、味PR



モスバーガーのロゴシールが貼られた県内産のトマトを手にする藤井雅人社長(右)と飯草正明グループリーダー(中央)＝岐阜市橋本町、カネ井青果アクティブG店

青果仲卸のカネ井青果(岐阜市茜部新所)は、「モスバーガー」を展開するモスフードサービス(東京都)とJA全農岐阜(岐阜市)と連携し、岐阜、愛知県の直営5店舗で取り扱う岐阜

県産のトマトにモスバーガーのロゴシールを貼って販売している。県内産トマトは、東海地区などのモスバーガーで使われており、おいしさを消費者にPRするとともに、売り上げの一部

を生産者に還元する。

3者が地元の農業を応援しようと昨年に行っており、同様の取り組みは全国で唯一。夏秋トマトは高山市や飛騨市、中津川市などで栽培されたもので、旬を迎えた今月から、袋やパックにモスバーガーのロゴが入ったシールを貼り、店頭に並べている。シール付きの商品は限定2万点。

カネ井青果の藤井雅人社長は「産地や味へのこだわりが強いモスバーガーとコラボすることで、岐阜の野菜のイメージアップにつなげたい」と力を込める。モスフードサービスSCM部アグリ事業グループの飯草正明グループリーダーは「持続可能な農業の実現に少しでも貢献できれば」と話す。(山田雄大)